

## 長期使用対応部材の 審査・承認・登録制度を開始

住宅メーカーや関連する部材メーカーなどで構成する長期使用住宅部材標準化推進協議会（以下、長住協）は、今年10月から長期使用対応部材の審査・承認・登録制度をスタートさせる。

# FLASH

長住協は、2008年に長寿命住宅の基盤づくりの実現を目指し発足した組織。住宅メーカーや関連する部材メーカーなどが同じテーブルに着き、住宅部材の標準化・共通化に向けた検討や調査などを行っている。現在の会員数は23社。会長は大和ハウス工業の西村達志代表取締役専務執行役員が務めている。

住宅部材については、品種や部品点数が多く、モジュールの違いなどもあり、標準化・共通化が難しいと

いう問題があった。

各メーカーが異なるモジュールや規格を採用しているため、例えばA社のサッシの戸車を交換しようとする、A社に問い合わせるしかない。戸車が標準化・共通化されていれば、居住者が自らホームセンターなどに行き戸車を購入し、メンテナンスを行うといったことが可能になる。

部材の標準化・共通化という問題は、住宅の長寿命化を図るうえでも見逃せないテーマになっている。

部品点数などの多さがコストアップにつながっているという指摘もあり、以前から住宅部材の標準化・共通化の必要性が訴えられてきた。

長住協では、部材を製造する建材・



登録を行うと「Cjkマーク」を表示できる

設備メーカーと、部材を使用する側である住宅メーカーが一緒になってこの問題を検討し、各社が競争競争しない部分について積極的に標準化・共通化を図っていくこととしている。

### サッシの戸車・クレセント、 平形屋根用スレートなどを標準化

標準化・共通化の手順としては、標準化・共通化を行う必要性が高い部品をピックアップし、それぞれの部品に関して標準化案を策定、関連企業や団体などの意見も反映させながら、長住協としての標準化規格を策定しようとしている。規格に合致した部品については、長期使用対応として審査・承認・登録を行う。登録を行った部品には「Cjkマーク」（写真）を表示できる。

今年10月1日からこの制度を本格的にスタートさせる方針で、第一弾として、サッシの戸車とクレセント、キッチン用台付きシングル湯水混合水栓、平形屋根用スレートという4品目について標準化規格を策定し、審査・承認・登録を行う。

長住協の会員である住宅メーカー

では、「Cjkマーク」が表示された部品を積極的に使用していく方針だ。

今後は室内ドアの戸車や箱錠、クロスなどについて標準化を図っていく予定。このうちクロスについては、クロスの色などに着目しながら、長期にわたり販売可能な商品を選定し、標準化・共通化を図っていくと考えている。

幹事を務める大和ハウス工業CS推進部官公庁渉外グループの柳瀬邦樹部長は「まずは必要性があり、標準化が可能なものから着実に取り組みを進めていきたい」としている。

部品の標準化問題の先には、住宅自体のモジュールの統一という非常に大きな課題もある。そのあたりについては、現時点では検討課題には上げておらず、できる部分から着実に1歩ずつ歩を進めていく方針だ。

長年の課題であった部品の標準化・共通化というテーマの実現に向けて具体的な活動が開始されようとしている。

長期優良住宅の理念を形にするためにも、同協議会の取り組みが重要な意味を持ち始めそうだ。